

あやこつうしん

岐阜市子ども・若者総合支援センター

“エールぎふ”親子教室 (2歳児)

9月



身近な大人に見守られ探索活動をして、「したいこと」が増えてきた子どもたちは、自我(自己主張)が出てきます。自分の思いが強くなり、関わりにくいことも多くなりますが、成長も多く感じられると思います。今回は、この時期の子どもの心の成長についてお伝えします。

～自我の育ちには気持ちを受けとめてもらうことが大切！～

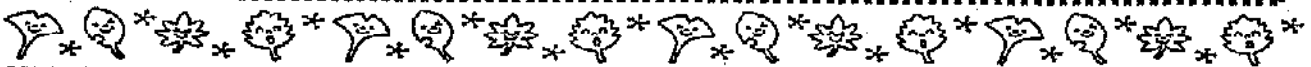
子どもたちは、見比べる力がつき、“できるーできない”ということに敏感になってきます。そのため、上手くできない時や自信のない時は、今までやっていたことも「いや!」「やらない!」と言ったり、大人にやらせようとしたりします。

親子教室の体操の場面で、やらないと主張し座りこむ子を大人が立たせようとする、力を抜いてぶら下がってしまうことがあります。大人は、そんな抵抗に「どうしよう、他の子はできているのに」と焦ってしまいます。そんな時には、思いきって親子で見学タイムにしてみましょう。子どもを観察してみると、友だちの姿や周りの様子をよく見ています。見て学んでいることが参加になります。「楽しそうだね。」「お家でやってみよっか。」などと子どもの思いを受け止め、気持ちを代弁してあげましょう。

子どもの気持ちを十分に受け止めたら、様子を見て「〇〇する?それとも△△にする?」と聞いてみましょう。

子どもが自分で選択する場面をつくることで、やる気が引き出されます。特に、歯みがきや着替えなど、生活の場面でやらなくてはいけないことは、“やるーやらない”の選択ではなく、「どっちの服にする?」や「どっちからやる?」等、やることを前提にして選択肢を与えることがポイントです。

自我が育つ時期は、「受け止められ、受け止める」経験が大切です。身近な大人が気持ちを受け止めてあげることで、子ども自身も他者の気持ちを受け止める力が育っていきます。



～達成感が自信へつながっていきます!～

大人がやらせようとする「イヤ」と主張するのに、できないことでも「ジブンで!」と主張する時もあります。時間がかかってもやる気がある時は、見守ることも必要です。大人は、我慢の時ですね。親子教室の片づけの場面で、先生に「ありがとう。」と声をかけられると、やる気に繋がりもう一つ運ぶ姿がみられます。大人からすると何気ない行動の一つであっても、子どもは自分でできたことに大きな達成感を感じています。“やった”“できた”“喜んでもらえた”という経験の積み重ねが自信になっていきます。大人は、つい結果に目がいきがちですが、挑戦しようとした思いや、お手伝いをしようとはりきる姿をたくさん認めてあげてください。

子どもは、自我を通して自分づくりをしています。大人にとって手ごわい時期でもあります。一緒に丁寧に向き合っていきましょう。

